

オープンキャンパスにおける体験コーナーの実践報告 — シャボン玉とカプラのキセキ —

Practical Report on Hands-On Experience Corner at Open Campus — The Miracle of Bubbles and Kapla Blocks —

伊藤 美保子* 藤井 伊津子* 廣田 敬子*
Mihoko ITO・Itsuko FUJII・Keiko HIROTA

1. はじめに

大学におけるオープンキャンパスの始まりは、1990年代後半からだといわれている。他大学においても、保育・オープンキャンパスに関しては、いくつかの報告があり、その成果や課題について学んでいる¹⁾²⁾³⁾⁴⁾。

筆者らが勤める作陽短期大学では、例年行われるオープンキャンパスにおいて、イベント(体験)コーナーを設け、子どもの遊びを高校生に体験してもらうことを通して、遊びや保育の魅力を伝えてきた。

2025年度も第1回～第3回まで開催してきたところ、高校生たちは童心に戻ったように遊び、楽しみ、子どもの世界に触れていた。

なかでも第3回の「シャボン玉で遊ぼう&カプラで遊ぼう」コーナーにおいて高校生の遊ぶ姿、発する言葉は感動的であった。遊びの中で偶然に起こる現象を瑞々しい感受性で捉え発する言葉、自分たちの子ども時代を取り戻すかのように夢中で(無心に)遊ぶ姿に、筆者らは改めて遊びの重要性、幼児期に触れる玩具や素材環境の質、保育者の関わりなどについて気づくことができ、こちらが高校生から学ばせてもらった出会いともなった。これは偶然の奇跡ともいうことができるだろう。

ここでは、「シャボン玉で遊ぼう&カプラで遊ぼう」コーナーで起こった奇跡(キセキ)を中心に、その軌跡(キセキ)を報告する。

2. 倫理的配慮

本学でのオープンキャンパスでの様子を、パンフレットや公告等に使用させていただくことについては、各校に了承を得ている。また、カプラのコーナーに訪れた高校生2名については本人に連絡を取り、エピソードと写真の掲載についての承諾を得ている。本学の倫理委員会においても審査を受けている。

3. 当日の流れ及び体験コーナーの状況

11時から始まるオープニングイベント終了後は、ランチ体験、学部・短大の紹介、保護者説明会等が開催され、その後、体験コーナー、ワークショップ、ピアノワンポイントレッスン、パレット公演&人形劇体験、キャンパスウォーク&なんでも相談コーナーへと続く設定となっている(図1)。

筆者らは、「シャボン玉で遊ぼう&カプラで遊ぼう」コーナーを担当していた。

* 作陽短期大学音楽学科幼児教育専攻 Sakuyo Junior College, Department of Music, Major of Childhood Education

子ども教育学部・短期大学 幼児教育専攻






イベント名	【子ども教育学部】 学部の魅力、まるっと紹介♪	【子ども教育学部】 保護者説明会	【短大 幼児教育専攻】 短大ってどんなところ？ ～ Yokyo Introduction & 短大 Trivia Quiz ～	【子ども教育学部】&【短大 幼児教育専攻】 シャボン玉で遊ぼう＆カプラで遊ぼう	【子ども教育学部】&【短大 幼児教育専攻】 幼児教育・保育の体験！ 大学生と一緒に、風鈴を作って遊ぼう！
時間	12:30～13:10	12:30～13:10	12:30～13:15	13:20～14:20 (体験時間:約30分)	①13:20～13:50 ②13:50～14:20
紹介文	くらしき作楽大学子ども教育学部の魅力・特色を在学生とまるっとお届けします♪また、各モジュールのイベント内容などご紹介いたしますので、是非、気になるイベントを体験いただき、子ども教育学部の魅惑を感じてください！	子ども教育学部の特色や魅力、カリキュラムや取得できる資格、入試対策について、保護者の方の目線でお伝えします。説明会以外の時間帯にも、ご質問や疑問にお答えします。ご不安なことがありましたら、お気軽にお声がけください。	「3年制」ってどんなシステム？学び方はどうやって選んだらいい？どんな勉強をしているの？どんな資格が取れるの？など、わかりやすく説明します。	シャボン玉とカプラで創造力全開！素材の魅力と遊びの楽しさを体験しよう！ 	風鈴づくりで造形遊びを体験！マールブリック技法と学生生活の展示も楽しめます！ 
会場	1号館1階125室 (大講義室)	1号館1階111室	2号館3階301室	2号館ロビー・外庭・2号館1階111室	2号館3階312室
イベント名	【子ども教育学部】 「こんな教室で大丈夫？」 を考えるワークショップ	【子ども教育学部】&【短大 幼児教育専攻】 ピアノワンポイントレッスン	【子ども教育学部】&【短大 幼児教育専攻】 はれっと公演&人形劇体験	【子ども教育学部】 キャンパスウォーク&リアルな作劇ライブ &個別相談コーナー	【短大 幼児教育専攻】 短期大学キャンパスウォーク& なんでも個別相談室
時間	①13:20～13:50 ②13:50～14:20	14:00～16:00 (レッスン時間:10分程度)	15:00～16:00	14:00～16:00	13:20～16:00 (随時)
紹介文	子供は、どんな教室で学びたいと思うでしょうか？ここでは児童生徒の目線からちょっと離れて、存生目線になって、「良い学級」「楽しい学級」「安心できる学級」について考えていきましょう。	ピアノ初心者も経験者もOK！10分のレッスン体験で作劇の学びを感ぜよう♪ 	学生劇団「はれっと」による人形劇を上演！観劇後は人形操作の体験も♪ 	全体の場では質問しにくいことも、気軽に尋ねてください。キャンパスウォークでは、「森の大学」という真名をもつ作楽大学のキャンパスを、在学生と一緒に巡ります。どんな施設があるのか、そこでどのように過ごしているのかなど、在学生が体験を交えながら紹介します。	短大生気分でキャンパスツアー！学生の声と個別相談で疑問もスッキリ解消！ 
会場	1号館1階122室	受付場所・控室:2号館3階313室	1号館1階125室	1号館1階111室	2号館3階301室

図1 オープンキャンパス資料

(1) シャボン玉で遊ぼう

2号館ロビーにて、ストロー、モール等でシャボン玉液を吹くものを個々に作成し、紙コップに入ったシャボン玉液を持って外庭に出た(写真1)。

外庭には、テーブルに、うちわの形や丸い輪っかがいくつも付いた道具を使って、シャボン玉が作れるよう環境を整えていた(写真4、5)。

コーナーのメッセージには「シャボン玉を作る楽しさ！見る楽しさ…周りの景色を映し出し、輝きながら消えていく、シャボン玉をいろいろな素材を使って、作ってみませんか？どんな大きさのシャボン玉ができるかは、その日のお楽しみです～シャボン玉の魅力を存分に楽しみましょう！！」と記した。



写真1

(2) カプラで遊ぼう

2号館1階の多目的室に、カプラ15箱分を準備しフロアに大きな丸い輪の形にカプラを置き、テーブルやイス、小さなフープ等をさりげなく配置し、入室した人だれもが自然に遊べるようにした(写真2、3)。

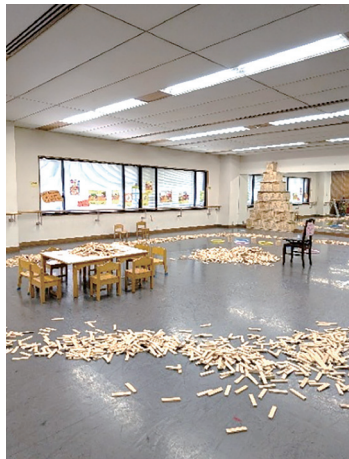


写真2



写真3

コーナーのメッセージには「カプラとは、フランス生まれの木目が美しいブロックです。長方形で薄く、シンプルな形をしています。無垢板の素材の色と単純な形だからこそ、その遊び方は無限大！イマジネーションを膨らませ、夢中になって遊びましょう！」とした。

※カプラとは、考案者トム・ブリューゲンの15年に及ぶ試作研究から生まれた、1：3：15の割合からなる木製ブロックである。フランス生まれの「ワンサイズの板」を積み重ねるだけで、建物や乗り物、動物まで作れる「魔法の板」とも呼ばれている。「フランス海岸松」でできており、木琴と同じ音色で、崩れる音まで美しい。

(参考：<https://www.kapla.co.jp/about/> 2025/8/26取得)

カプラジャパン 特製 日本語ガイドブック カプラジャパン 2011 p.11)

4. コーナー遊びの実際

(1) シャボン玉で遊ぼうコーナーの実際：風が飛ばした

オープニングイベントや各学科の説明を受けた高校生や保護者の方たちが、シャボン玉コーナーに続々と参加してくれる。ストローにはさみで切り込みを入れ、モールでハートの形を作り、紙コップのシャボン玉液をつけて小さなシャボン玉をたくさん吹く高校生もいた。

また、うちわの枠組みや丸い大きなプラスチックの輪っかに液をつけて、右に左に振ってみると、とても大きくて美しいシャボン玉が空を舞った。

本学は、周辺に山の木々が美しく、当日は青く晴れた空に白い雲という、壮大なロケーションが広がっており、まさにシャボン玉日和でもあった。

高校生も教員も次々にシャボン玉を飛ばしその美しさに歓声を上げ、気づけば保護者の方も楽しんでくださっていた。吹いては、振っては、大きく、小さく、重なったりもして飛んでいくシャボン玉を、どれほど楽しんだらうか。

高校生の一人が大きな輪っかを上に持ち上げた瞬間、何もしないのに次々に美しいシャボン玉となって空高く舞い上がった。「風が飛ばした！！」とその高校生は思わず叫んだ。

少し小高いところに吹く風は、シャボン玉をも作り上げて大空まで連れて行ってくれる。その場にいる人たちみんながその美しさや楽しさに惹きつけられるが、遠くから歩いてくる人たちまでも「あ、シャボン玉」と声を上げてくれる。

モールを使って自由に丸や三角、ハートの形を作り、どのくらいの角度で持ち、どのくらいの強さで吹くのが、最もたくさん飛ばせるかを何度も試し、シャボン玉名人のように吹き続けてくれる高校生の姿も印象的で、2本の赤、白のモールを巻いて作ったハート型が一番よくシャボン玉ができたため、記念に持って帰ってくれた。(保護者は、持って帰ってどうするん！とおっしゃっていたが…)

幼いころから何十回、いや、何百回と見てきたシャボン玉に時間の経つのも忘れ、楽しむ光景を共にすることができ、子どもの遊びの楽しさを共有することができたことを嬉しく思った(写真4、5)。



写真4



写真5

シャボン玉コーナーの遊びを振り返って思うことは、シャボン玉はなぜこんなにも人の心を惹きつけるのかということであった。一つには、様々な道具を使ってシャボン玉づくりができたこと。また一つには、モールを使って飛ばすシャボン玉には、モールの形をどのくらいの大きさにするか、吹き方のコツで、想像以上のシャボン玉が作れるということが分かり、そこに挑戦しようとする意欲が生まれたことで遊びに集中力が増した。

また、戸外で行ったことにより、山と青空と真っ白い雲に囲まれていた環境であったと同時に、時折吹いてくれる“風”が絶妙にシャボン玉作りに楽しさと偶然の不思議を加えてくれた。

高校生、保護者の方、在校生、教職員が共にその場面を楽しみ、そしてその集団も遊びの盛り上がりと共に数回入れ替わった。遊びを楽しむとき、誰と一緒にいるのかも、環境の大事な要素となる。

シャボン玉コーナーで思う存分楽しんだ高校生たちの集団が波のように引いていき、コーナーの片づけをし始めた頃、つい先ほどまで賑やかで美しかった光景が、再びシャボン玉のように浮かんでは消えていくように思われ、その軌跡を心の中で追っていた。

日本の保育界の礎を築いた倉橋惣三は、『育ての心』の序章で次のように述べている⁵⁾。

自ら育つものを育てようとする心 それが育ての心である。

世にこんな楽しい心があるか。それは明るい世界である。

育つものと育てるものとの、互いの結びつきに於いて相楽しんでいる心である。

片づけをしつつ、今日、シャボン玉コーナーに参加して下さったすべての人が、互いの結びつきの中で、相楽しんでいる心があったような、そんな気持ちになっていた。

(2) カプラで遊ぼうコーナーの実際：ありがとう！俺の人生

カプラのコーナーにもたくさん的高校生が来てくれた。初めてカプラに触れるという高校生もいれば、友達と楽しく話しながら次々と形を作っていく高校生もいた。

なかでもひととき楽しそうに、二人で協力しながらカプラを筒状に高く積み上げていく高校生は、2時間近くその筒を高くし、天井に届きそうになるまで粘りよく作り上げていた(写真6)。

題して「俺の人生」だと教えてくれた。聞けば、小さい時からカプラが大好きで。毎日のように保育園のカプラで遊んでいたとのこと。今日も「カプラで遊ぼう」の文字に惹かれてこの部屋に来てくれ、「今日は自分よりも高く積み上げてみたい！」と張り切って最初から最後までこの場においてくれた。

天井に届くほどの高さまで積み上げたところで、「人生」は完成となった(写真7)。そこで記念撮影した。よく頑張ったねえ…。けれども感動はここからだ。高く積み上げた丸い塔をどうするか…。「俺の人生」、と言った高校生は考えに考え、「じゃあ、行きます!」と、手を挙げて合図をしたかと思うと、小さくしゃがみ、その塔の一番下を掬うように手で抱きしめた(写真8)。と同時にその塔は一瞬にしてまっすぐに美しい音を立てながら崩れ落ちた…(写真9、10)。

そばで見ていた教員は、そのあまりの潔さと、崩れるさまと美しい音に、思わず歓声を上げながら拍手した。拍手をいつまでもしたい気持ちになった(写真11)。



写真6



写真7

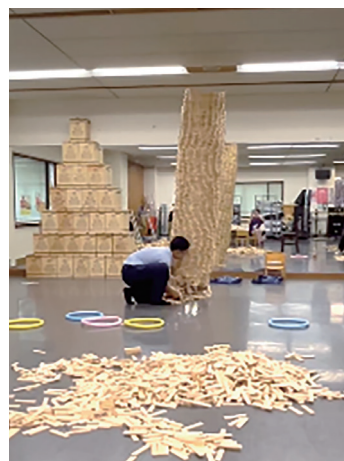


写真8



写真9



写真10



写真11

「俺の人生」を作り上げたAさんは、友達Bさんと一緒にオープンキャンパスに来てくれ、幼いころ毎日のように遊んだ「カプラ」という文字に惹かれて来てくれた。まだ誰もいなかったが、教員に「遊んでいいですか?」と尋ね、「もちろん!」の一言に「よっしゃー!」という気合の入った掛け声とともに、作り始めた。塔の形になってからしばらくして、自然にBさんもそこに加わり、二人でどこまでも積み上げることを楽しんでいた。

コーナーには、写真を見ながら、扇形、お城、橋など様々なものを作っていたほかの学生さんたちもいたが、帰りのバスの時間もあって徐々に退室して行った。AさんとBさんは時間があつたため、二人だけになったが、できるところまで積み上げたいと、椅子の上に上って必死に積み上げた。最後は、教員4名が見守る中、天井を間近に完成となった。この後、「塔はしばらく飾ってもらい、壊れたら片づける」という意見も出たが、教員の「崩すところまでしてはどうか…」という問いかけに、

Aさんが考えに考えて、崩すという決断をした。

その時の様子は、前述している通りだが、どう崩すのかを考えているときから、崩す瞬間、崩れた後まではみんな固唾をのんで見守り、崩れ落ちる美しい音と、まっすぐに崩れたことに教員たちは思わず歓声を上げ拍手をした。「すごい!」「お疲れさまでした!」と声をかけた。

二人の高校生も、「すごっ」と崩れたカプラを写真に撮っていた。そして、すがすがしい表情で「夢が叶いました!!」と伝えてくれ嬉しそうに帰っていった。

部屋の片づけをしながら、いろいろなことが思い出された。幼いころよく遊んだカプラに久しぶりに出会えて、高校生もカプラも嬉しかったことだろうと思う。

完成した「俺の人生」を崩すとき、Aさんが一番下のカプラを掬うように抱きしめてくれた結果、カプラはひとつ残らずまっすぐに崩れ落ちた。崩れた後も模様までが残り、美しかった。

保育・幼児教育に携わる教員として最も感動したことは、一番下を抱きしめるように掬ってくれたことであった。カプラの塔を人生に例えれば下から乳児期、幼児期…と続くような気持ちで見ている。

講義で大学の学生たちに「乳幼児期…遠い記憶に置まれていく乳児期こそが、とても大事な時期」だと、何度も伝えてきたのだが、今日はカプラの遊びの最後に、「そこが一番大事だよ」と、高校生のAさんから教えられたようで、とても嬉しく思うと同時に、遊びや学生さんから学ぶことのなんと多いことか、と思わずにはいられなかった。

それにしても二時間近く続いた友達との塔づくり、その集中力と協同性、完成した後の崩し方に見るAさんの決断力、判断力、崩れるカプラの方向性までをも考えいかに美しく崩すかという総合的なセンスには見とれるばかりだった。何よりも保育園で毎日カプラで遊んだことが記憶に残り、いつか自分の身長よりも高くしたいという小学校からの夢へとつながり、今こうして奇跡のように実現し叶えられた…。筆者ら教員も立ち会うことができたことが本当にうれしく、忘れられない場面となった。

5. おわりに

オープンキャンパスは、どこの大学においても、高校生が親しみを持って将来のことが考えられるようにと、心を尽くして行われていることであろう。本学においても、コロナ渦を経て、昨年度から再び、対面での催しが工夫されている状況である。

今回は、オープンキャンパスにおけるシャボン玉とカプラの遊びコーナーでの、エピソードを紹介した。保育・幼児教育を学び始める高校生と出会う時、子どもの遊び環境を準備し、様々に楽しんでもらいたいと思う。高校生一人一人がどのような気持ちで遊んでいるか、何か必要なものがあればその都度、環境を整える。そのことは、保育もオープンキャンパスの時も同じであると考えられる。

今後も、オープンキャンパスの様々な催しを通して、高校生の未来への第一歩となるようなひと時が過ごしてもらえよう、また、高校生の持つ力や内在する思いが引き出せる大学となるよう、精一杯頑張りたいと思っている。

引用文献

- 1) 榎原 志保, 須河内 優子, 鈴木 大介, 中川 陽子, 樋口 奈生, 米田 美沙子 オープンキャンパスにおける幼児教育学科・生活デザイン学科共同企画「絵本フェスタ」報告:参加生徒の学び、在学スタッフの学びに着目して 大阪成蹊短期大学研究紀要 = Bulletin of Osaka Seikei College/大阪成蹊短期大学研究紀要編集委員会 編 (22) 153-175, 2025
- 2) 榎原 志保, 紺谷 武, 須河内 優子, 園田 育代, 沼田 恵太郎, 樋口 奈生, 松本 早苗, 向井 秀幸 幼児教育学科オープンキャンパスにおける「子ども夏祭り」企画の成果と課題:「保育職の魅力発信」ならびに保育学生の学びの深化をめぐる大阪成蹊短期大学研究紀要 = Bulletin of Osaka Seikei College/大阪成蹊短期大学研究紀要編集委員会 編 (20) 111-121, 2023
- 3) 勝田 みな オープンキャンパス参加者の交流を活性化するための指導プログラムの検証 子ど

も学研究論集（8）61-74, 2016-03

4) 加藤 智也 オープンキャンパスと連携したWebコンテンツ制作と実践—芸術大学保育系学部
の取り組み 情報教育研究集会講演論文集/情報研究教育集会企画・プログラム委員会 編2009年度
150-152, 2009

5) 倉橋 惣三『育ての心』（1965）倉橋惣三選集第三巻 フレーベル館 p.12

付記

本研究は、令和7年度一般社団法人全国保育士養成協議会学術研究の助成を受けて行われた成果の一部である。

